小学校第五学年　国語　「推薦（すいせん）する文章を書こう」（書くこと）　目標時間 10分

○ 鈴木さんは、自分の好きな詩「七つの子」をくわしく調べ、友だちに推薦する文章を書くことにしました。

さまざまな資料を調べていくうちに、鈴木さんは、**【資料A】**、**【資料B】**の二つの解説文を見つけました。詩と解説文を読んで、あとの問いに答えましょう。

七つの子

野口雨情

烏（からす） なぜ啼（な）くの
烏（からす）は山に
※可愛（かはい）七つの
子があるからよ

可愛（かはい） 可愛（かはい）と
烏（からす）は啼（な）くの
可愛（かはい） 可愛（かはい）と
啼（な）くんだよ

山の古巣（ふるす）に
行つて見て御覧（ごらん）
丸い眼をした
いい子だよ

※　可愛＝かわいい

【資料A】

「七つの子」とは「七歳の子」という意味です。野口雨情が息子さんと裏山に行ったとき、カラスが鳴いていました。その声を「かわいい」と鳴いているのだと、雨情は教えたそうです。

また、雨情は、一時的に息子さんと別れて暮らさなければなりませんでした。

そのとき、息子さんはまだ七歳でした。

野口雨情は、大切な息子のことを心配に思い、カラスの親子と重ね合わせながら、この詩を書いたのです。

【資料B】

「七つの子」とは「七羽の子」という意味です。

野口雨情は、次のように考えていました。

人に嫌われているカラスだって、本当はかわいらしい生き物だ。子どもが読む詩の中に生き物を区別するような考え方を入れてはいけない。

雨情は、自然や命、そして子どもを何より大切に考える人でした。

ですから、カラスのことを人間の子どもをかわいがるようなまなざしで、「可愛」「丸い眼をしたいい子」と表現したのです。

一　鈴木さんは、ふたつの解説文を読み、内容のちがいを考えました。「可愛七つの子」は、**カラス**、**人間**のどちらを指していますか。□の中に書きましょう。

【資料A】

【資料B】

二　鈴木さんは、**【資料A】**の解説文を読んで、「七つの子」の詩のことをますます好きになりました。鈴木さんの立場になって、八十字以上百字以内で推薦する文章を書きましょう。

100字　80字

組　番　氏名